

NPO 法人サンカクシャ 活動報告書

# ANNUAL REPORT 2023



団体名 特定非営利活動法人 サンカクシャ  
代表理事 荒井 佑介  
住所 〒170-0012 東京都豊島区上池袋 4-35-12 3 階  
TEL 03-6905-8287

サンカクシャ   
<https://www.sankakusha.or.jp>



お問い合わせはこちら ▼



<https://www.sankakusha.or.jp/contact/>



# どんな境遇にあった若者でも 安心して生き抜いていける社会をつくる

## 若者たちには、 時間やたくさんの人の関わりが必要です

いつもあたたかいご支援をありがとうございます。  
2023年度は、住まいも居場所も相談が前年度の2倍ほど寄せられました。

「親に家を追い出された」「家を出たいが生きていける自信がない」など、一つひとつの相談に若者たちが置かれている過酷な状況がうかがえます。

増え続ける相談に応えようとスタッフを増員し、今では30名ほどのスタッフで対応にあたっています。  
大変な仕事にも関わらず、諦めずに若者たち一人ひとりに向き合うスタッフには感謝が尽きません。

過酷な環境を生き抜いてきた若者たちには、「休むこと」と「遊ぶこと」が大切だと気づきました。

20年間虐待を受け続け、安心できる場所がなかった若者が、1年や2年で変わるのは難しく、時間やたくさんの人の関わりが必要です。

学びや就労など「自立」に近づいていくと支援は多くなりますが、働くもっと手前の支援が不足しています。

お金がつきにくい、けれども大切な活動は、寄付者や応援していただいている皆さんのサポートがなくては作れません。

たくさんの方に応援され続けること、スタッフが心身ともに健康で楽しく働ける環境を作ること、そして若者たちにたくさんの機会を届けられる団体になるよう、より一層力を尽くしていきます。  
これからも応援をよろしくお願いいたします。



NPO 法人サンカクシャ  
代表理事  
荒井佑介

## ISSUE 解決したい問題

子どもでもなく、大人でもない。  
セーフティネットからこぼれおちていく「若者」たち

サンカクシャは、若者の社会参画（サンカク）を支援する2019年設立のNPO法人です。  
主に、親からの虐待などを理由に家から逃れてきた**15~25歳**くらいの若者を、**居場所・仕事・住まい**の3つでサポートしています。

### サンカクシャにつながる若者の特徴

男女比

男性	女性
50	50

#### 22歳・男性のケース

お酒を飲んで暴れる父親から、木刀で殴られていた。命の危険を感じ、家を逃れるように飛び出すが、メンタルの不調で仕事が長続きせず、寮付きの職場を転々としてきた。

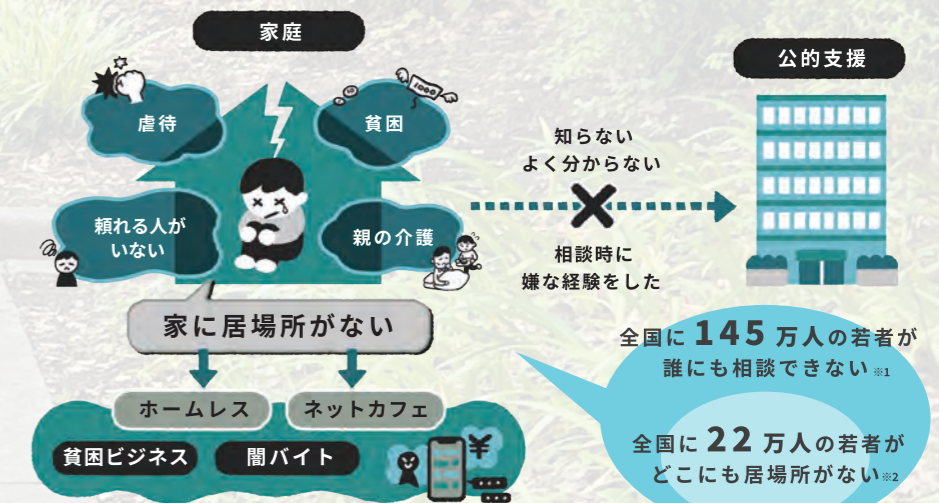


#### 23歳・女性のケース

母親の死亡後、父親から性的な嫌がらせを受けて家を出た。関西・九州など各地を転々とした後、出会い系サイトで知り合った人の家に泊まることを繰り返してきた。

### 背景にある社会課題

18歳を過ぎた若者への支援は急激に少なくなります。「行政に相談すればいい」「若いのだから働けばいい」と思われがちですが、長年虐待などにさらされてきた若者は生きる意欲を失っていたり、大人への不信感を抱いていることが多く、相談にいたるまでに高いハードルがあります。家を逃れ行き場のない若者たちは、闇バイトや貧困ビジネスなどの脅威にさらされています。



全国に145万人の若者が  
誰にも相談できない<sup>※1</sup>

全国に22万人の若者が  
どこにも居場所がない<sup>※2</sup>

子供・若者インデックスボード ver.4.0 (こども家庭庁) と  
令和5年人口推計 (総務省統計局) の15歳から24歳人口から推計  
<sup>※1</sup> 家庭や学校、インターネット空間などどこにも相談できる人がいないと回答した人の割合12.4%  
<sup>※2</sup> 家庭や学校、地域などどこにもほっとできる居場所がないと回答した人の割合1.9%

18歳を過ぎれば法律上は成人です。  
しかし、生きる意欲を失い、社会経験も未熟な若者たちが、  
自分を守りながら生きていく力を育むにはサポートが必要です。

サンカクシャは、一人ひとりの若者にじっくり向き合い、  
自立までの日々に寄り添う丁寧な支援を行っています。



# サンカクシャの5つの支援ステップ

サンカクシャが、団体設立から5年をかけて築き上げてきた支援体制です。

若者たちの成長は一直線ではなく、各ステップを行きつ戻りつしながら、約3年の時間をかけて自立へと向かっていきます。  
 ひとりの若者の自立をサポートするためにかかるお金は352万円。  
 サンカクシャは、常時200人程度の若者をサポートしています。

行政や他の支援団体と連携して支援が必要な若者とつながります。また、SNSといった若者がアクセスしやすいツールを使って接点をつくります。

心身が疲弊し、生きる意欲すら失った若者に、安心な居場所や住まいを提供します。大人に不信感を抱いている若者との関係づくりから始まります。

色々な人と会い、遊びや体験を重ねて、人と関わることに慣れていきます。「これをやってみたい」という意欲を回復させる大切なプロセスです。

働いた経験が少ない若者に、まずは安心な環境で、スタッフや知り合いと一緒に仕事を体験する機会を提供します。

就職と離職を繰り返し、少しずつ生活が安定していきます。若者たちを励ましながら、徐々にサンカクシャから離れていくのを見守ります。



1年

1年

1年

## 居場所事業

## アウトリーチ事業

## 居住支援事業

## 社会サンカク事業

### サンカク相談室

孤立した若者にサンカクシャの情報が届くように、SNSを使った動画配信を行っています



### サンカクハウス サンカクシェルター

3か月~1年半程度を目安に、行き場のない若者たちに安心な住まいを提供しています



### サンカクキチ ヨルキチ

若者たちが日常を過ごすことのできる拠点を運営しています(ヨルキチは深夜の居場所)



### オデカケ

運動や外出など、さまざまな体験を通じて徐々に意欲を取り戻すと同時に、若者との関係を築いていきます



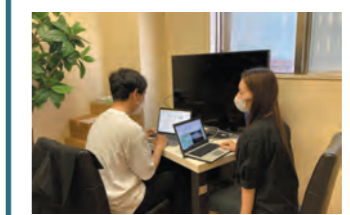
### サンカククエスト

若者の仕事体験にスタッフが同行します。仕事は地域の企業からご依頼をいただきます



### イッシュヨニバイト

まだ働く自信のない若者に寄り添い、若者の仕事探しの伴走支援をします

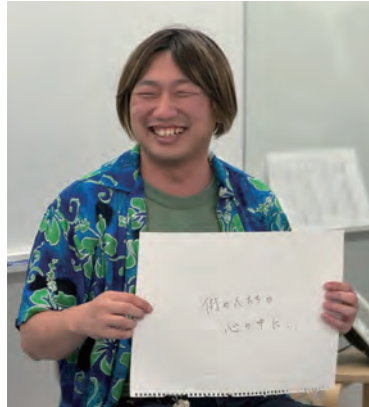


## 特別座談会！

# サンカクシャの若者とスタッフが語る、 「この1年で一番うれしかったエピソード」



スタッフ  
早川 「あの子最近どうなの？」と  
気にかけてくれる人が増えた



早川（スタッフ：居場所事業責任者）：単に拠点を運営するだけでなく、若者たちが自分の居場所だと思える場所を見つけるためのサポートをしています。

ここ一年で、街のなかで「あの子最近どうなの？」と若者の様子を気にかけてくれる大人が、グッと増えたと感じています。街の人たちの心の中に、若者の居場所があることが嬉しくて、訊かれるたびにあたたかい気持ちになります。サンカクシャがこうあってほしいと願う社会の姿に、少しずつ近づいていっている気がしています。

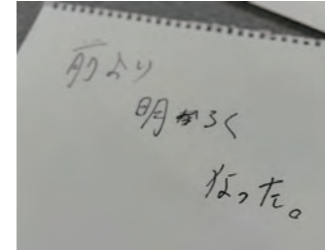
若者  
ゆかりさん（仮名） なんでもないときに  
話しかけてくれるのが  
嬉しかった



ゆかりさん（仮名）：普段、あまり人と関わらないで生きてきて、一生そのままでもいいかなと思っていたんですけど、サンカク

シャにきてから「夕食の買い物と一緒にいかない？」とか、「こんなイベントあるけど行って見ない？」とか、スタッフさんが誘ってくれるようになりました。なんでもないときに話しかけてくれることも嬉しかったです。

若者  
たけしさん（仮名） 「前より明るくなった」と  
言われた



たけしさん（仮名）：知り合いから「前より明るくなった」と言われました。自分では感覚的にそんなに変わった

気がしていなかったのですが、サンカクシャと関わるようになって、目に見えるくらい変わったんだろうなと思っています。

人間関係が苦手で、多少がんばればできても、あとで大きな反動がきていたのがある程度抑えられるようになって、大人数の中でもある程度話せるようになりました。正直それはスタッフさんや皆さんのおかげだと思っています。

スタッフ  
宮本 子どもの頃の夢を  
思い出してくれた



宮本（スタッフ：社会サンカク事業責任者）：意欲を取り戻した若者が次の一歩をふみ出すために、さまざま

な仕事体験をつむお手伝いをする事業を担当しています。ある日お花屋さんでの仕事体験に参加した若者が、「昔、お花屋さんになりたかったんだよね」と、後でこっそりスタッフに話してくれたと聞きました。

ふだんは自分の気持ちを我慢してしまうその子が、子どもの頃の夢を思い出したという出来事に、自分の気持ちに素直になれてよかったねと感動していました。

## 2023年度の活動ハイライト

1 短期滞在型のシェルター  
「サンカクシェルター」の提供開始



一時的な居住確保や共同生活が苦手な若者のニーズに応えるため、単身・短期滞在型シェルターの提供を開始しました。詳しく→7P

2 若者の仕事体験プログラムが集結した  
「クエストフェス」を初開催



コーヒースタンドなどの若者の仕事体験を集めた初のフェスを1か月にわたって開催し、11人の若者が参加、のべ87人の地域の方と交流が生まれました。詳しく→8P

3 「サンカク相談室」TikTokで  
ライブ配信開始



若者に向けて情報発信すると同時に、悩みにリアルタイムで答えるオンライン相談室として、TikTokでのライブ配信を開始しました。詳しく→9P

4 都会の喧騒を離れ、  
若者が古民家で農体験キャンプ



昨年度は東京・池袋の拠点周辺を離れ、地方にも「オデカケ」の範囲が広がりました。古民家でのキャンプ体験では、これが人生初という若者も！



# 居場所事業

「サンカクキチ」「ヨルキチ」「オデカケ」



若者たちが現状を変えていく意欲を取り戻すために



若者が心身を落ち着かせたり、人とのつながりや、街のなかで居場所を得られるように相談・交流する拠点「サンカクキチ（上池袋）」を運営しています。同時に、若者が楽しいと感じられる体験の機会「オデカケ」の提供にも力を注いでいます。2023年度は、拠点周辺だけでなく、若者とともに地方にも出かけてさまざまな体験を重ねてきました。前年度にトライアルとしてスタートした深夜の居場所事業「ヨルキチ」の定期開催がはじまるなど、活動のバリエーションが広がっています。居場所の利用者は、前年度比2倍以上となったことから、若者支援における居場所のニーズの大きさを感じています。

## Data

年間開放日数  
**サンカクキチ**  
(毎週火・水・木・土 14時~21時)  
**206日**  
**ヨルキチ**  
(毎月第2・第4金曜 21時~翌朝)  
**24日**

年間利用回数  
**2973回**  
**(若者の数 165名)**

※サンカクキチ、ヨルキチ利用数  
 (個別相談の利用者を含む)の合計

対前年度比  
**2倍以上**

## Story

### 若者自身が願う方向に変わっていくきっかけに

サンカクキチは、若者たちにとって生活に「余白」を生む場であってほしいと思っています。余白があることで、落ち着いて自分自身の過去、今、そしてこれからの向き合うことができます。実際にスタッフとの関わりのなかで、今の自分にとって必要なものは家族と離れることだと気がついた若者もいました。私たちは直接若者を変えることはできませんが、関わりのなかで若者たちが願う方向に変わっていけるきっかけを届けていきたいと強く思います。



居場所事業 統括責任者  
早川 智大

# 居住支援事業

「サンカクハウス」「サンカクシェルター」



まずは若者にとって安心安全な場所になるために



家にいられない、ネットカフェで寝泊まりしている。住まいのことに困っている若者からの相談を受けて、シェルターやシェアハウスを提供しながら生活の立て直しまでの伴走支援を行っています。住まいに関する相談は増加の一途をたどっており、23年度はシェアハウス1棟、シェルター5部屋を増設しました。携帯電話が止まっていたり、お金がなかったりする若者も。心配や不安を抱えた若者たちにとって、まずはサンカクキチが安心安全な場所となることを目指して、病院や行政窓口への同行や相談等を通じて関係性を築いていくことを大切にしています。

## Data

シェアハウス  
**4棟 17部屋 (男性用3、女性用1)**

短期滞在型シェルター  
**7部屋**

新規入居者  
**シェアハウス…14名**  
**シェルター…14名**  
**退去者 24名 (2023年度累計)**

2023年度までに  
 住まいを利用した若者の延べ人数  
**63名**

## Story

### 若者の意欲を呼び起こす伴走支援が私たちの強みです

若者からの住まいに関する相談の多くは、「ホームレス」という言葉で表される姿とはすこし異なります。児童養護施設などの社会的養護の経験者だけでなく、虐待が発見されず、20歳頃まで一人きりで抱えてきた若者たちをサポートするには、ただ住まいを提供するだけでは不十分です。一緒にごはんを食べたり、ドライブをしたり、出かけたり。心理的ケアや相談支援はもちろん、一緒に過ごす時間の積み重ねのなかで「実は…」と本音を伝えてくれることもあります。若者の意欲を呼び起こす伴走支援が私たちの強みです。



居住支援事業 統括責任者  
久保 菜緒



## 社会サンカク事業

「サンカククエスト」「イッシュヨニバイト」



意欲を取り戻した若者たちが、次の一步をふみ出すために



居場所や体験を通じて意欲を取り戻した若者たちが、次の一步をふみ出すための仕事体験プログラム「サンカククエスト」は、企業や個人の方から依頼された仕事（クエスト）を、若者が知り合いと一緒に実行することで自信を身につけていくものです。初開催した若者の仕事体験を地域の方に応援してもらう「クエストフェス」には、のべ 87 人の方にご参加いただき、若者たちが街の人とつながるきっかけが生まれました。就職やバイトの相談も前年度比 3 倍近くに増え、活動を継続するなかで若者たちに意欲や自信ができてきたことがうかがえます。

### Data

実施したクエスト  
**58 種類 199 回**

参加人数  
**52 人 (のべ 291 人)**  
※うち 28 人がクエスト初参加

クエスト依頼主、若者を見守った大人の数  
**60 人 (のべ 143 人)**

就労にかかる面談・同行  
**45 回 (25 人)** ▲  
対前年度比 **3 倍**

連携企業・団体数  
**累積 52 社**

### Story

#### 若者の頑張りを見守る人がいる社会を願って

対人不安を抱えていた若者が、クエストフェスに向けて何度もお店に通い、コーヒーを淹れる練習を繰り返したおかげで、本番ではコーヒーを淹れながらお客さんとポツポツ会話できるようになりました。本人は気がついていませんが、練習姿を見てくれている大人がいて、その方々が本番でも応援に駆けつけてくださいました。その若者の年始の書き初めは、「街に出て、友だちをつくる」。若者の頑張りを見守る人が周りにいる、そういう社会であってほしいと願うばかりです。

社会サンカク事業 統括責任者  
宮本 緑

## アウトリーチ事業

「サンカク相談室」



### 若者のチャンネルに合わせて、若者に届くことばで

TikTok や YouTube、X といった SNS 上に「サンカク相談室」という相談窓口を作り、サンカクシャが対象としている 15 歳から 25 歳頃までの若者に向けて情報発信を行っています。今この瞬間も路上で生活している若者や家で虐待に耐えている若者たちに少しでも情報が届くように。10 代、20 代の利用者が多い SNS で団体の紹介や普段の活動の様子を届けています。サンカク相談室は、サポートが必要な若者にリーチすると同時に、遠方に住んでいるなどの理由で対面での相談が難しい若者にとって、TikTok の生配信を通じて相談を受けられるオンラインの居場所的存在となっています。



### Data

総視聴回数  
**1500 回**

TikTok からの配信回数  
**29 回**

### Story

#### 安心してサンカクシャの扉を叩けるように

当初は情報発信してもなかなか届かなかったのですが、最近は動画を観てサンカクシャを利用したいと問い合わせしてくれた若者もいたり、毎週のオンライン配信の中で、新たに相談をしてくれる若者も増えてきました。面白い動画や楽しい配信をすることで、相談するハードルを低くできていると感じています。



アウトリーチ事業 統括責任者  
寺中 湧飛

### ◆ 調査・提言



#### 若者向けの居場所 調査レポート

若者支援の文脈における「居場所」をさまざまな角度からひも解き、居場所の意義、機能を幅広くとらえた調査レポート（2024 年 2 月公開）

※本調査は、休眠預金活用事業「若者の『望まない孤独』支援モデル形成事業」の助成を受けて実施しました。



#### 若者への居住支援に関する実態調査 報告書

若者の居住支援を行っている全国 11 団体へのアンケートから、居住支援の実態や課題、そこから導かれる政策提言をまとめた報告書(2024 年 2 月公開)

※本調査は、休眠預金活用事業「社会的養護アフターケア緊急支援助成 2022」の助成を受けて実施しました。

### ◆ 視察受入実績

こども家庭庁や東京都をはじめとする地方公共団体、企業・団体の皆様に、若者の居場所としてサンカクシャが運営する「サンカクキチ」を視察していただきました。

年間受入数：331 名  
視察先：サンカクキチ（居場所事業拠点、豊島区上池袋）

（主な視察組織名）  
こども家庭庁、東京都、豊島区、藤枝市、燕市議会、北区社会福祉協議会、花王株式会社 ほか





# サンカクシャを支援して下さった 個人・法人の皆さま

**個人** サンカクシャのご近所でコーヒースタンドを運営！  
若者とスタッフの日常に寄り添ってくださっています



仕事を紹介して下さったり、  
若者がコーヒーを淹れる仕事体験の機会もいただいています

▶ **河田彩さん Aya Kawada**  
古民家レンタルスペース「滝野川フレイムス」管理人

「関わるきっかけは友人がサンカクシャで働いていたこと。友人越しに見た若者は、だれしにもあり得る姿で他人事と思えなかった。社会は甘くないかもしれないけれど、初めて食べたカレーはみな甘口だったはず。だから滝野川フレイムスはサンカクシャからいちばん近くていちばん優しい社会でありたい」

## シェアハウス用の物件をご提供いただきました！

個人・法人

若者をアルバイト雇用して下さったり、お米 1.8 トン (!) を  
個人でご寄付いただきました

▶ **三村翔さん Sho Mimura**  
近代産業株式会社 代表取締役、立教大学体育会フェンシング部監督

「サンカクシャさんの取り組んでいらっしゃる社会課題が、とてもひとこととは思えないため陰ながら支援させていただいております。これからも健全な生活の基本であるコメの供給と、居心地の良いシェアハウス探しを続けていきたいと思っております」



## ご支援をいただいた主な企業の皆さま

社名 (敬称略)	ご支援の内容	社名 (敬称略)	ご支援の内容
株式会社セールスフォース・ジャパン	寄付、物品寄贈	Okta Japan 株式会社	パソコン寄贈、若者就労支援サポート
花王ハートポケット倶楽部、花王株式会社	寄付	武蔵塗料ホールディングス株式会社	ミーティングスペース提供
サイボウズ株式会社	イベントスペース・製品提供	ディースタンド株式会社	若者就労支援サポート
TikTok Japan	ライブ配信協力	RR CACAO 株式会社	寄付つき商品企画・販売
PwC Japan 有限責任監査法人	プロボノ支援 (戦略策定)	株式会社 NEWONE	社員募金
キンドリルジャングループ	社員ボランティア (清掃サポート)	株式会社ジンジブ	若者就労支援サポート
有限会社ヒゲプロ	広報協力、若者就労支援サポート	ワークデイ株式会社	社員ボランティア、物品寄贈
株式会社トライ	広報協力、若者就労支援サポート	株式会社ウィルオブ・ワーク	若者就労支援サポート

その他、2023年度を通じて多くの企業・団体の皆様にあたたかいご支援をいただきました。



## 法人 プロボノ支援

同社のプロボノ制度を活用して、サンカクシャの中長期計画や  
企業連携のための戦略策定をチームでサポートしていただきました



▶ **三橋敏さん Satoshi Mitsuhashi**  
PwC Japan 有限責任監査法人公認会計士

「当社のプロボノチームで 3 か月間、団体の事業計画や企業連携の資料作成をお手伝いしました。団体が今後やりたいことを議論しながら、目指す将来の絵を描くなど、一緒に団体の未来を考える楽しい時間を過ごすことができました。当社の若手スタッフにとっても、社会体験や仕事の仕方といった面において貴重な学びの場となりました」

## マンスリーサポーターさん

個人

若者に料理も教えていただきました！  
若者のどんな質問にも優しく、丁寧に答えてくださいました

▶ **阪中真理さん Mari Sakanaka**

「サンカクシャの活動は、あるときには「支援」というくくりを飛び出して突飛に見えますが、後から振り返ってみると、若者に必要なことを着実にやっていることに驚かされます。新鮮なアプローチをされている荒井さんをはじめメンバーのみなさんの姿には、いつもワクワク・ハラハラしておりますが、私も楽しみつつ、一緒にできることを増やしていきたいです！」



## 2023 年度 助成金受取実績

助成対象事業	助成元 (敬称略)	助成対象事業	助成元 (敬称略)
アウトリーチ事業	株式会社 NTT データ経営研究所	社会サンカク事業	Okta Japan 株式会社
居場所事業	一般財団法人日本民間公益活動連携機構 (資金管理団体：特定非営利活動法人育て上げネット・READYFOR 株式会社)	社会サンカク事業	公益財団法人パブリックリソース財団
		社会サンカク事業	Apple Japan 合同会社
居場所事業	首都圏若者サポートネットワーク	居住支援事業 (シェアハウス)	社会福祉法人中央共同募金会
居場所事業	公益財団法人東京コミュニティー財団		
居場所事業 (オデカケ)	社会福祉法人中央共同募金会	居住支援事業	一般財団法人日本民間公益活動連携機構 (資金管理団体：公益社団法人ユニバーサル志縁センター)
			独立行政法人福祉医療機構
居場所事業	豊島区	居住支援事業	独立行政法人福祉医療機構
社会サンカク事業	公益財団法人つなぐいのち基金	組織基盤強化	パナソニックホールディングス株式会社



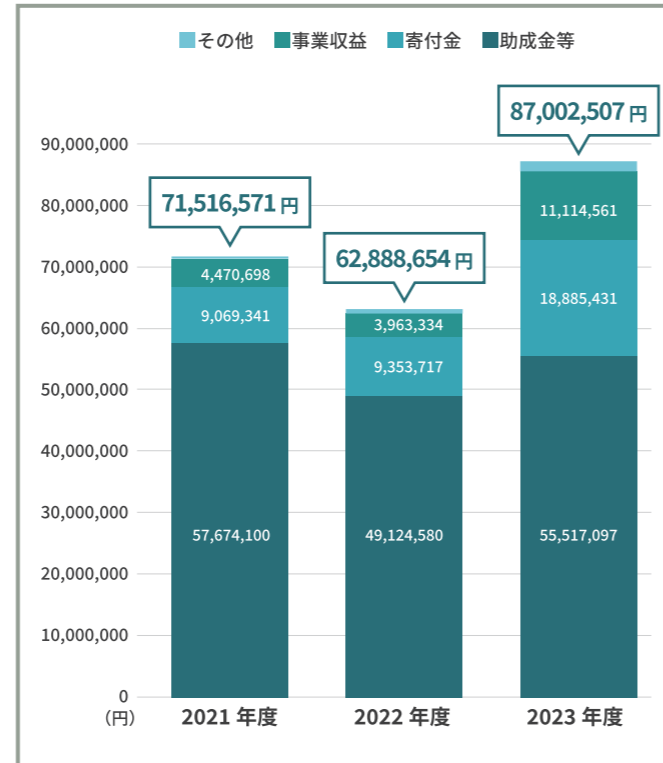
# 会計報告

## 活動計算書 (2023年4月1日～2024年3月31日) (単位:円)

科目		金額
<b>経常収益</b>		
受取会費	正会員受取会費	45,000
受取寄附金	受取寄附金	18,885,431
受取助成金等	受取民間助成金	55,517,097
事業収益	子ども若者の居住支援事業	7,814,507
	子ども若者の社会参画事業	462,054
	研修講師派遣およびコンサルティング事業	2,838,000
雑収益	企業研修・講演料他	1,440,247
	受取利息	171
経常収益計		87,002,507
<b>事業費</b>		
人件費	給料手当	17,878,208
	法定福利費	1,927,297
その他経費	業務委託費	25,533,397
	謝金	196,181
	印刷製本費	821,404
	会議費	3,570
	旅費交通費	2,483,660
	車両費	201,954
	通信運搬費	1,060,727
	消耗品費	1,980,156
	修繕費	547,355
	水道光熱費	2,471,043
	地代家賃	2,310,000
	保険料	221,514
	租税公課	1,400
	支払手数料	3,525,034
	広告宣伝費	451,000
	雑費	1,555,958
	若者家賃	11,326,764
事業費計		74,496,622
管理費		
人件費	給料手当	860,014
	法定福利費	101,698
その他経費	福利厚生費	34,100
	業務委託費	4,531,889
	印刷製本費	21,911
	会議費	4,925
	旅費交通費	230,066
	通信運搬費	92,613
	消耗品費	67,488
	諸会費	47,000
	租税公課	7,650
	研修費	621,500
	支払手数料	1,730,104
	支払利息	73,986
	広告宣伝費	495,000
管理費計		8,919,944
経常費用計		83,416,566
当期経常増減額		3,585,941
経常外収益計		0
経常外費用計		0
税引前当期正味財産増減額		3,585,941
法人税・住民税及び事業税		70,000
当期正味財産増減額		3,515,941
前期繰越正味財産額		18,742,420
次期繰越正味財産額		22,258,361

※「若者家賃」の科目は居住支援施設の家賃を指します。活動計算書の全項目ならびに貸借対照表、事業費内訳はサンカクシャのウェブサイトにて公開しております。あわせてご覧ください。

## 経常収益の3期推移



## 主なメディア掲載

- 2023年度
  - 9月 フジテレビ「めざまし8」  
「SDGsで地球のハイプスイとありがとう！」のコーナーで密着取材
  - 10月 東京新聞（1面、ウェブ版）  
「『トー横以外にも居場所』深夜、池袋のマンションに集まった若者たちが「本当に助かる」と話した理由」でヨルキチが紹介
  - 10月 リディアバジャーナル  
「【若者の孤独孤立】つながり無き自立の壁」に代表荒井のコメント掲載
  - 11月文化放送「レコメン！」  
「東京都若者応援プロジェクト『井上咲楽の Cheer up! Radio』」に代表荒井が出演
- 2024年1月 日本経済新聞朝刊  
「若者に募る孤独感「居場所ない」声届く社会に」でサンカクキチが紹介
- 3月 フジテレビ「ザ・ノンフィクション」  
「居場所をさがして～僕と家族とシェアハウス～」でサンカクシャが特集

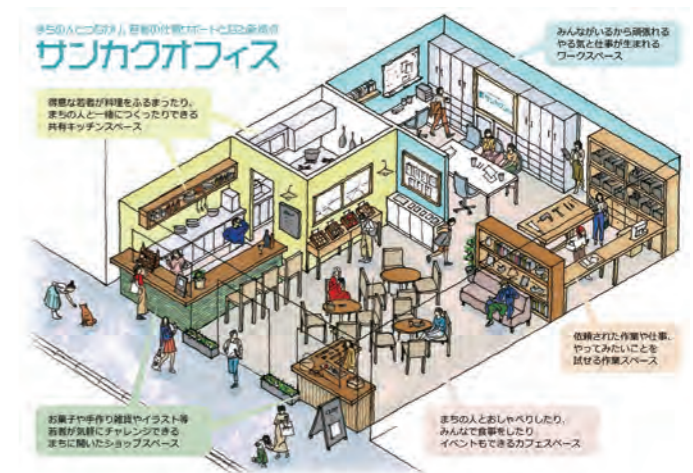


# Next Challenge

## 2024年度の取り組み

### 仕事を通じて、若者がまちの人とつながる新支援拠点をオープン！

居住支援や居場所支援を通じて意欲が回復してきた若者の「働きたい、頑張りたい！」を後押しし、仕事を通じて若者がまちの人とつながりを得るため、仕事のサポートに特化した支援拠点「サンカクオフィス」を開設します（2025年1月頃オープン予定）。さらに、居住支援に関する新たな試みとして、株式会社 PoliPoli、一般財団法人 Soil 等のご支援により家賃補助プログラムをスタートしました。



「サンカクオフィス」のイメージ図（2025年1月頃オープン予定）



若者が安心して生き抜いていける社会をサンカクシャとともに作る

## ご支援の方法

### 個人の皆さまへ

#### 寄付で応援

#### 定額寄付 おすすめ

月々 **1,000円** から  
継続サポート

#### 単発寄付

お好きな金額を  
選んでご寄付

#### クレジットカードでのご寄付はこちらから

サンカクシャ 寄付

<https://www.sankakusha.or.jp/donation/>

#### 銀行振込でのご寄付はこちらから

ゆうちょ銀行 一三八支店（138）  
普通 0384791  
振込先受取人名：(トビ)サカクシャ



お振り込み連絡フォーム  
※ご入金前後に、  
左の申込フォームより  
ご連絡をお願いいたします。



### 法人の皆さまへ

#### 寄付で応援

ご寄付によるご支援（物品の寄贈等を含む）をご検討いただける方は、  
団体ウェブサイトのお問合せフォームよりご連絡ください。

サンカクシャは、さまざまな企業の皆様との連携を通じて、若者が仕事体験によって自信を取り戻していくためのサポートを行っています。（2023年度の主な支援・連携企業一覧はP10へ）